

経済・金融  
フラッシュ

## 米個人所得・消費支出(23年5月)

PCE 価格指数は総合、コアともに前月比、前年同月比の伸びが小幅鈍化

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

## 1. 結果の概要: 個人所得は市場予想を上回る一方、個人消費は市場予想を下回る

6月30日、米商務省の経済分析局(BEA)は5月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.4%(前月改定値:+0.3%)と+0.4%から下方修正された前月、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.3%を上回った(図表1)。個人消費支出は前月比+0.1%(前月改定値:+0.6%)と+0.8%から下方修正された前月、市場予想の+0.2%を下回った。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出(前月比)は横這い(前月改定値:+0.2%)とこちらも+0.5%から下方修正された前月、市場予想の+0.1%を下回った(図表5)。貯蓄率は4.6%(前月:4.3%)と前月から+0.3%ポイント上昇した。

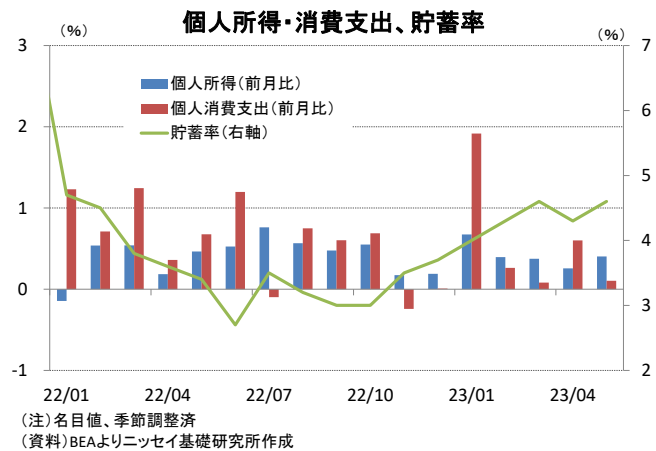
価格指数は、総合指数が前月比+0.1%(前月:+0.4%)と前月を下回った一方、市場予想(+0.1%)に一致した。変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数も前月比+0.3%(前月:+0.4%)と前月を下回る一方、市場予想(+0.3%)に一致した(図表6)。前年同月比は総合指数が+3.8%(前月改定値:+4.3%)と+4.4%から下方修正された前月、市場予想(+4.7%)を下回った。コア指数は+4.6%(前月:+4.7%)とこちらも前月、市場予想(+4.7%)を下回った(図表7)。

## 2. 結果の評価:PCE 価格指数は総合、コアともに前月比、前年同月比で伸びが鈍化

個人消費(前月比)は5月が+0.1%と4月の+0.6%から大幅に伸びが鈍化したほか、4月分も▲0.2%ポイント下方修正されるなど、個人消費のモメンタムが低下していることを示した(図表1)。サービス消費が輸送サービスなどの増加を背景に堅調を維持する一方、自動車やガソリンなどの財消費が減少した。

個人所得(前月比)は労働需給の逼迫を背景に賃金・給与が+0.5%と高い伸びを維持していることもあって、堅調な伸びが続いている。この結果、貯蓄率は4.6%と前月から

(図表1)



1 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

+0.3%ポイント上昇したほか、22年6月の2.7%から上昇基調が持続しており、所得対比で消費余力を残す状況となっている。

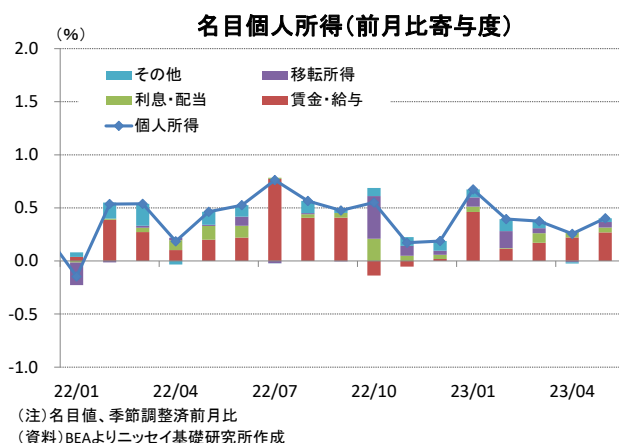
一方、FRBが物価指標としているPCE価格指数は、5月が総合指数と物価の基調を示すコア指数ともに前月比、前年同月比ともに小幅ながら伸びが鈍化した。もっとも、総合指数の前年同月比での低下が顕著となる一方、コア指数は22年12月以降に概ね横這い圏で推移しており、基調としての物価上昇圧力が依然として高い状況であることを確認する結果となった。このため、FRBは7月のFOMC会合で再び利上げに転じる可能性が高いとみられる。

### 3. 所得動向:賃金・給与の堅調な伸びが持続

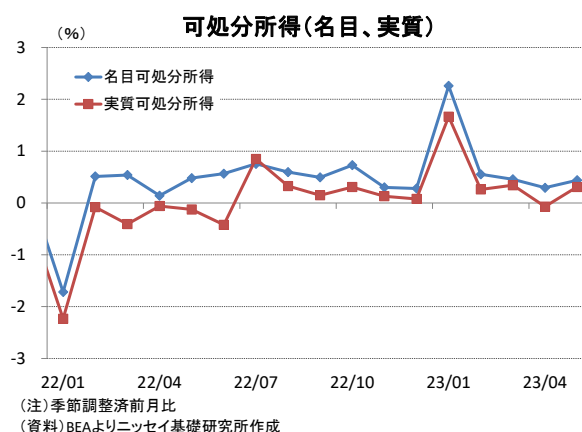
5月の個人所得（前月比）は労働需給の逼迫を背景に賃金・給与が+0.5%（前月：+0.4%）となり堅調な伸びが持続した（図表2）。また、自営業者所得が+0.3%（前月：▲0.6%）、移転所得が+0.3%（前月：▲0.1%）といずれもプラスに転じた。一方、利息配当収入は+0.3%（前月：+0.4%）と堅調を維持しているものの、前月から伸びが鈍化した。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は、5月の名目が+0.4%（前月：+0.3%）と前月から伸びが加速した（図表3）。一方、価格変動の影響を除いた実質ベース（前月比）は+0.3%（前月：▲0.1%）とこちらは前月からプラスに転じた。

（図表2）



（図表3）



### 4. 消費動向:財消費とサービス消費で明暗

5月の名目個人消費（前月比）は、財消費が▲0.5%（前月：+0.9%）と前月が大幅な伸びとなった反動もあってマイナスに転じた一方、サービス消費が+0.4%（前月：+0.5%）と前月から小幅に伸びは鈍化したものの堅調を維持した（図表4）。

財消費は、耐久財が▲0.9%（前月：+1.0%）、非耐久財が▲0.3%（前月：+0.8%）といずれも前月からマイナスに転じた。

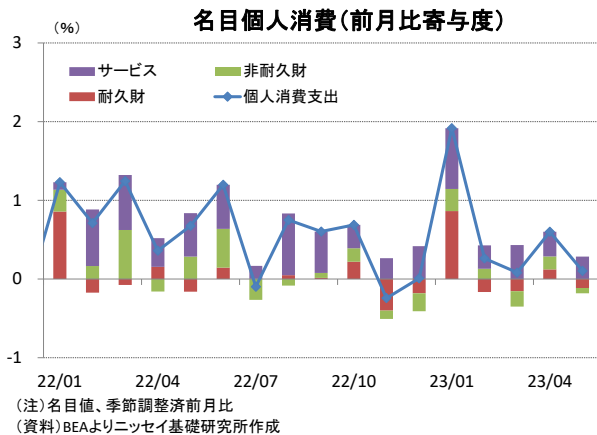
耐久財では、家具・家電が+0.4%（前月：横這い）と前月から伸びが加速した一方、娯楽財・スポーツカーが+0.2%（前月：+0.7%）と伸びが鈍化した。さらに、自動車・自動車部品が▲3.0%（前月：+2.0%）と大幅なマイナスに転じて耐久財消費全体を押し下げた。

非耐久財では、衣料・靴が+0.1%（前月：+0.6%）、食料・飲料が+0.3%（前月：+0.4%）と前月

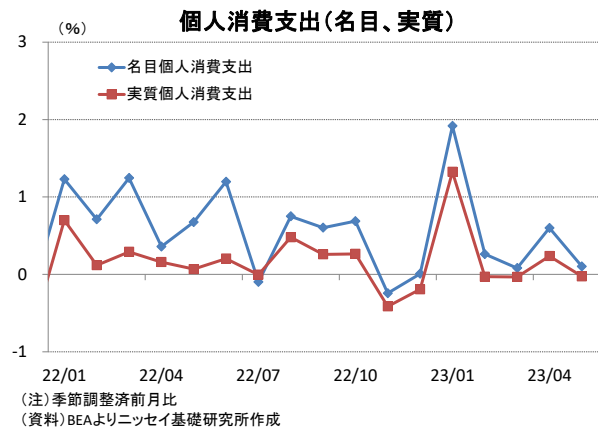
から伸びが鈍化したほか、ガソリン・エネルギーが▲5.2%（前月：+2.2%）と大幅なマイナスに転じて非耐久財消費全体を押し下げた。

サービス消費は、娯楽サービスが▲0.6%（前月：+0.7%）と前月からマイナスに転じたほか、医療サービスが+0.4%（前月：+0.7%）、金融サービスが+0.5%（前月：+2.1%）と前月から伸びが鈍化した。一方、住宅・公共料金が+0.2%（前月：▲横這い）と前月からプラスに転じたほか、外食・宿泊が+0.5%（前月：+0.1%）、輸送サービスが+1.6%（前月：+0.7%）と伸びが加速した。

(図表 4)



(図表 5)

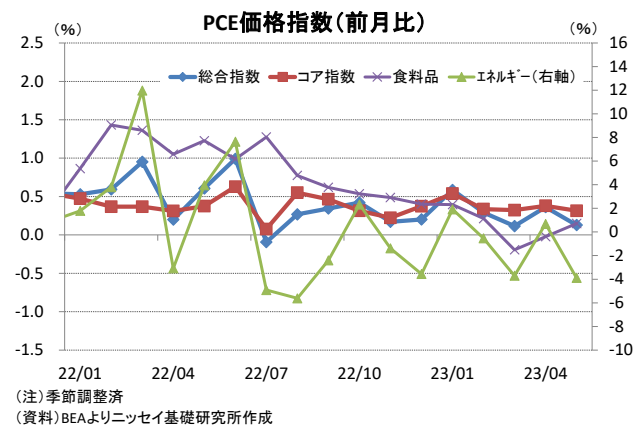


## 5. 価格指数: エネルギー価格が前月比、前年同月比ともに減少

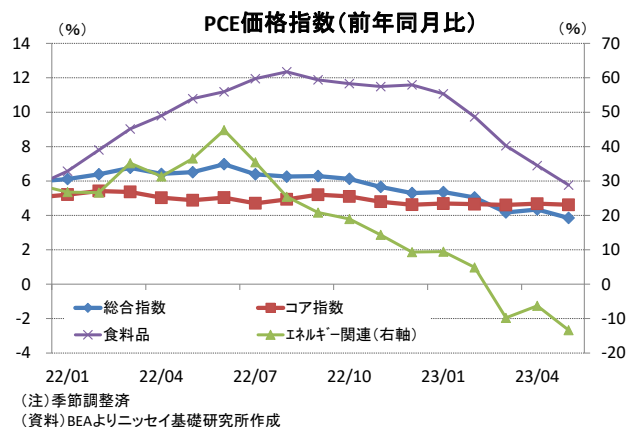
価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が▲3.9%（前月：+0.7%）と前月からマイナスに転じた（図表 6）。一方、食料品価格指数は+0.2%（前月：▲横這い）とこちらは3ヵ月ぶりにプラスに転じた。

前年同月比は、エネルギー価格指数が▲13.4%（前月：▲6.3%）と3ヵ月連続のマイナスとなったほか、20年5月以来のマイナス幅となった（図表 7）。食料品価格指数は+5.8%（前月：+6.9%）とこちらは71ヵ月連続のプラスとなったものの、前月から伸びが鈍化した。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。